

平成29年度 中央区立久松幼稚園 自己評価報告書

中央区立久松幼稚園 住所 東京都中央区日本橋久松町7-2

園長 太田 禎子

幼児数 162名 学級数 8 教員数 9名 職員数 4名

教育目標

人間尊重の精神を基調として、生きる力の基礎を培う教育を推進する。心身ともに健康で主体的に身近な環境や人と関わりながら、節度ある礼儀や基本的生活習慣、規範意識の基礎を培うことを目指し、次のような子どもの育成に努める。

- たくましい子 ・心身ともに健康な子を育てる。
- 進んでやる子 ・素直に表現し、自ら考え進んで行動できる子を育てる。
- 心豊かな子 ・思いやりの心を持ち、心豊かな子を育てる。

29年度の重点 豊かな心と健やかな体の育成（連続性のある久松の教育を推進）

重点目標1

自分から進んで健康で豊かな生活を送れるようにするために、様々な経験を積み重ね、必要な習慣や態度を身に付ける。

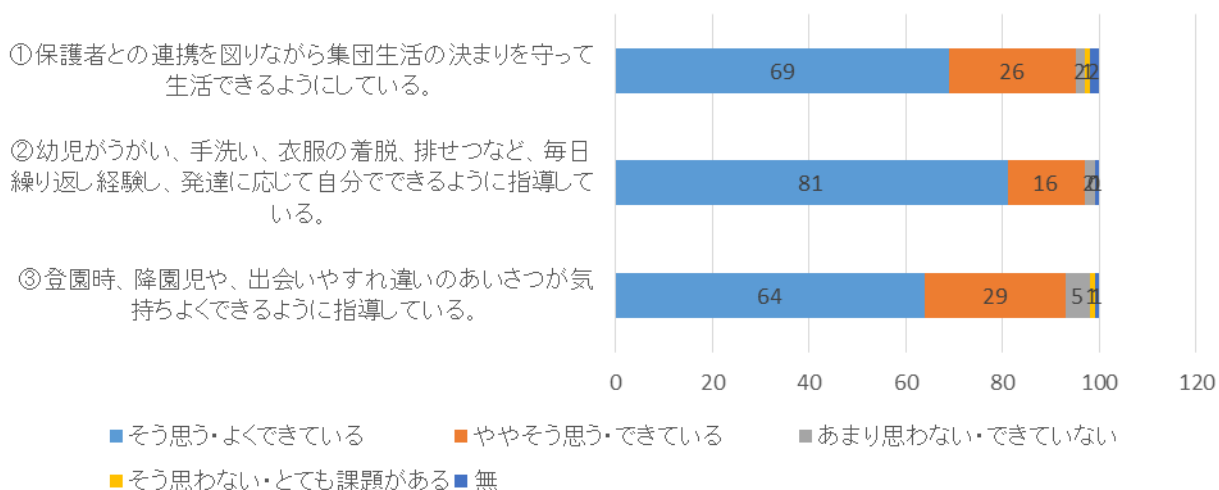
（道徳性の芽生え、規範意識、自立心の芽生え）

評価項目：

- ① 保護者との連携を図りながら、温かく、規律ある幼稚園生活を送る。
- ② 幼稚園の様々な活動の中で、幼児一人一人の生活習慣を形成する。
- ③ 様々な人と関わる場であいさつをする心地よさを味わえるようにする。

評価指標：グラフ内に記載（保護者・外部評価委員の評価8割以上）

保護者アンケート 重点目標1



重点目標 2

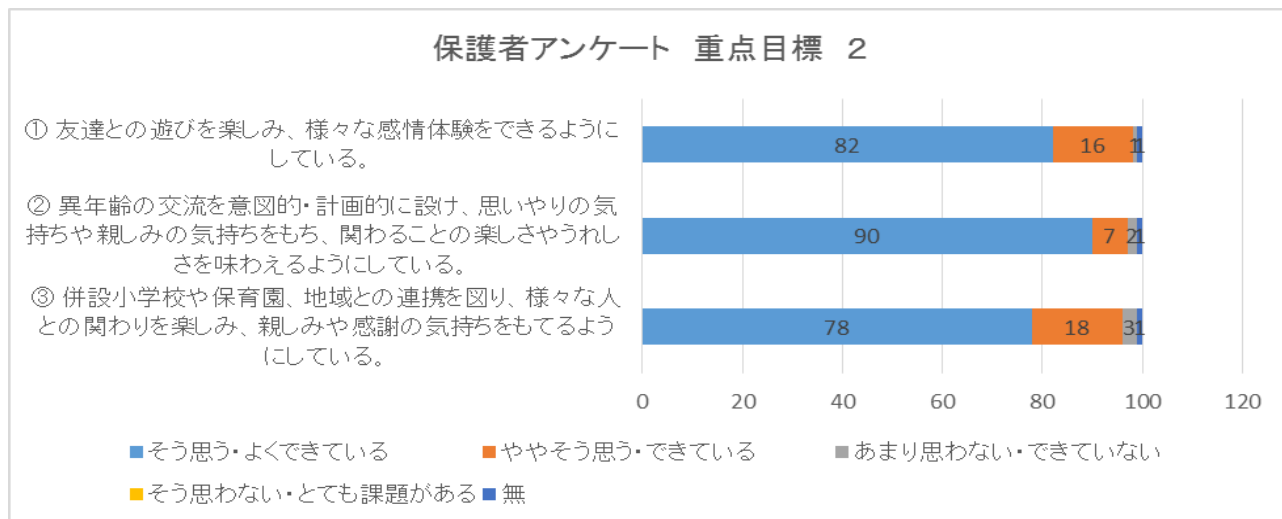
学級・学年を超えた関わりがもてるような交流活動を充実させ、様々な感情体験をしたり触れ合いの温かさを感じたりして、思いやりの心を育む。

(多様な関わり、思考力の芽生え、協調性、言葉による伝え合い、認め合い、譲り合い)

評価項目：

- ① 発達に応じて、友達との遊びを通して、健やかな心と体を育成する。
- ② 学級・学年間の交流の他、小グループでの異年齢の交流の機会や遊びの場を設け、発達に応じた関わりを経験から学ぶ。
- ③ 小学生、保育園児、地域の様々な人との交流の機会を設け、触れ合いの温かさを感じる。

評価指標：グラフ内に記載（保護者・外部評価委員の評価 8 割以上）



重点目標 3

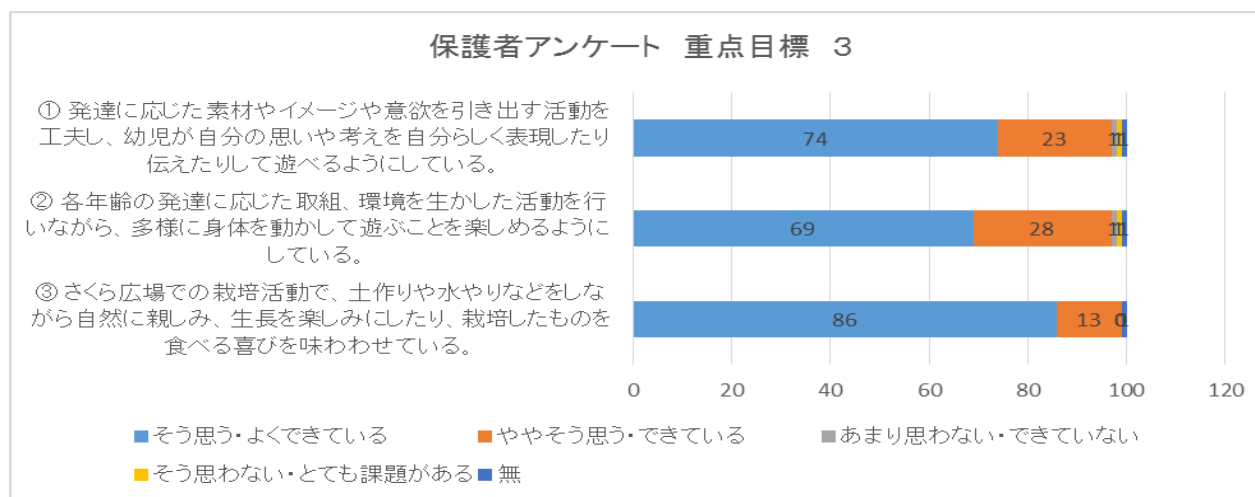
多様な運動遊びや思いを豊かに表現する遊びを通して、たくましい心と体を育成する。

(協調性、道徳性の芽生え、製作や体の動きによる表現、言葉による伝え合い)

評価項目：

- ① 材料を工夫して製作をしたり、友達とイメージを伝え合ったりして遊ぶ。
- ② オリンピック・パラリンピック教育を推進し、発達に応じた取組みや環境を生かした活動を行い、多様に体を動かして遊ぶ。
- ③ 身近な自然に親しみ、栽培活動、食育を推進する。

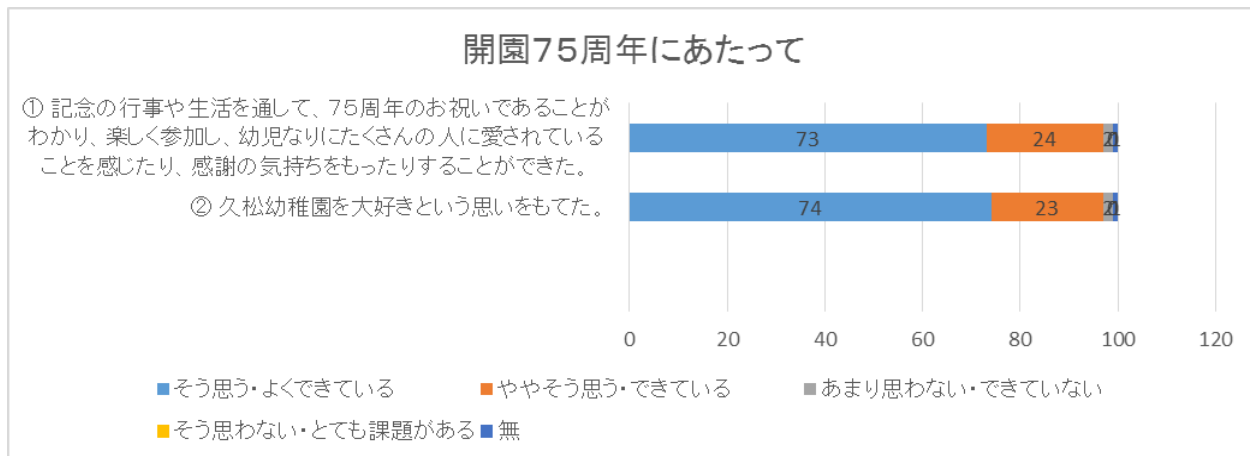
評価指標：グラフ内に記載（保護者・外部評価委員の評価 8 割以上）



<開園75周年にあたって>

久松幼稚園の歴史と多くの方の支えに感謝し75周年が迎えられることを全園児、保護者、地域の方とで喜び合える一年とする。

- 記念の行事や生活を通して、幼児なりに75周年のお祝いであること、たくさんの人に愛されていることを知り、感謝の気持ちをもつ。
- 久松幼稚園を大好きという思いをもつ。
- 自分の町を大好きという気持ちをもつ。
- 幼稚園のみんなや小学生と一緒にいることを通して、親しみの気持ちをもつ。



教員・保護者のアンケート結果から分かったこと・今後に向けて

1 重点目標の達成状況と取組状況

重点目標1

- ・朝の登園時間については、繰り返し保護者に伝えていったところ、多くの保護者が子どもと時間内に登園しようと頑張ってくれました。時間を守る、決まりを守ろうとするその姿勢は幼児期から身に付けていきたい。朝の気持ちの良いスタートが切れるようになったことで、幼稚園生活で力を発揮できている幼児が増えた。
- ・幼稚園でのルールがあいまいで保護者に伝わっていないことや実践できていないことも多い。日頃から保護者の中からもルールが守られていない保護者がいるのではという意見も多く聞こえてくる。各家庭での事情もあり難しいところもあるが、集団生活であり、規律をもった園生活を送るためにももう少し徹底する工夫も必要ではないか。生活習慣においても個人差があり、課題も多い。
- ・登園時の園長とのあいさつでは、年長児の姿をモデルとして、3歳児でも止まって目を見て、元気な声でする姿が少しずつ増えてきた。
- ・生活習慣の確立や日頃様々な人とのあいさつでは家庭での声掛けや指導も大切なので、保護者とさらなる連携を図って取り組んでいきたい。

重点目標2

- ・幼稚園での異学年との触れ合い、学び合いは本園のもっとも大事にしているところであり、幼稚園公開や日頃の情報発信からも保護者に伝わっていて、教員、保護者ともに高い評価である。教員間では、さくら広場や廊下など学年を超えて見やすく刺激を受けやすい環境をうまく使って、遊びを展開したり遊具の配置を工夫したりしたことで、計画的に自然な交流をもち学び合うことができたと考えている。また、今年度は75周年に関する行事も多く、そのたびに分かりやすく保護者へ発信できたのではないかと考えている。今年度の発信の成果を来年度につなげ、遊びや経験の内容を具体的に保護者へ伝えていかれるようにする。

重点目標 3

- ・思い切り体を動かす経験、場の設定では安全面においても計画に位置付けていくことが必要である。校庭とさくら広場とで環境が分かれていることもあり、時間や場を区切った指導、教師間での声掛けなど、今後も丁寧な配慮が必要である。午後、校庭で、全園児が外遊びをする時間を毎日設けたことで、幼児の運動量が確実に増えた。今後も学年に応じてねらいを共通理解し、全職員が適切な援助ができるように努めていく。外遊びを進んで取り組まない幼児に対するアプローチと、経験させたい遊びの導入などをさらに検討し取り組んでいく。
- ・場の工夫、年間を通しての計画を見直し、さらに計画性のある魅力ある環境作りに努める。
- ・長い廊下にケンパがしたくなるカラフルで大きさの違う紙を貼ったことや、移動時に動物や忍者などになりきる動きを取り入れたことなど、日頃の生活の中で自然と動きが誘発された。今後も工夫を続けていく。
- ・今年度、年間の指導計画や実態を調査しているため、これを活かして来年度さらに充実した計画、内容を検討していく。
- ・今年度も栽培活動においては保護者の評価がとても高い。さくら広場での活動の充実にさらに努めていく。家庭にも参観で見ていただいた食育教室は大変好評だった。日頃から幼児自身が栄養バランスについての会話がされるようになっていく。

開園 75 周年に関して

- ・年間を通して様々な機会に皆でお祝いをしてきた。保護者にもそれが伝わっていた。
- ・周年で歌った歌や園歌は大好きで今でも歌いたがる幼児が多い。積極的に保育に取り入れている。
- ・小学校とともに行った行事で学んだことも多い。
- ・久松の教育のよさをたくさん知ることができ、子どもたちは豊かな経験ができた。

2 その他

○自然との触れ合いについて

- ・学級ごとに栽培物の水やりや、自然物との触れ合いなど環境を工夫し、幼児の自然との触れ合いを大事にしてきた。3 学年の発達に応じた計画となるよう、見直しをもって取り組んだが、進め方には反省点も多い。さらに自然との関わる機会を工夫していきたい。

○オリンピック・パラリンピック教育について

- ・今年度も広い視点から捉えて取り組んできた。特に、冬季オリンピック・パラリンピックが開催されたことにより、園児の興味・関心も高く、保育環境にも取り入れて、様々な話題、遊びで楽しむことにつながった。真似して体を動かして遊んだり、いろいろなスポーツや国旗に興味をもったりする姿が見られた。車いすバスケットボールの方の講演会に参加した後のパラリンピック開催があったことで関心ももてたようである。国際理解教室では、南アフリカについて知ることができ、環境の違いに関心をもつことができたので、来年度の一校一国運動にもつなげていきたい。

平成 30 年度に向けた取組

- 1 「豊かな心と健やかな体を育成する」ことを目指して、引き続き「自分らしく表現する幼児の育成」の研究を進め、指導・環境の工夫に努める。その際、新教育要領の本格実施を踏まえ、遊びを通しての総合的な指導、環境を通して行う教育、という幼稚園教育の基本に立ち返り見直していく。
- 2 運動遊び推進園として、計画的に多様な運動遊びを取り入れる。室内と校庭のそれぞれの環境の特徴を活かした運動遊びや、思わず体を動かしたくなるような遊具や用具を工夫し、体を動かすこと十分に楽しめるようにする。
- 3 幼稚園での異学年との触れ合い、学び合いは本園のもっとも大事にしているところである。今年度の振り返りを活かし、廊下やさくら広場、園庭の活用など環境の工夫や行事での関わりなどを見直し、さらに充実した豊かな触れ合いから、道徳性の芽生えや、思いやりの心などを育んでいく。

